宗教法人日本キリスト教団片瀬教会付属
片瀬のぞみ幼稚園
Katase Nozomi Kindergarten

片瀬のぞみだより

２０１８年９月号

家庭通信　2018　No.

2018 年９月主題聖句

「ザアカイ、急いで降りて来なさい。

今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」

（ルカによる福音書１９章５節）

牧師（設置者）磯部理一郎

新学期を迎えました。キラキラとまぶしい程に、大きく逞しくなって登園される園児の皆さん、いらっしゃい。今日からまた、新しい成長の旅立ちをめざします。保護者の皆さんも、園児の皆さんに負けないくらい、まぶしく、養育者としての思いを深くしておいでのことと拝察いたします。

新学期最初の保育主題は、「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」（ルカによる福音書 19 章 5 節）という聖書のみことばです。イエスさまの時代のユダヤの国は、巨大帝国、ローマ帝国の属国（植民地）でした。ローマ皇帝は、帝国の各国に総督と軍隊をおき、世界を支配していました。ローマ皇帝は、世界中の人々に皇帝のための「税金」を納めさせ、また皇帝のために「礼拝」を求めました。ユダヤの民には、ユダヤ教の信仰が深くあり、特に「神の民」「選びの民」として、強い誇りと尊厳を持っていましたので、皇帝に税を納めたり、皇帝を礼拝することに、強い抵抗と嫌悪がありました。後にそれはローマへの反乱となり戦争を引起すことになります。ところが、その一方で、ローマ皇帝の権力を利用して自分の支配力を得ようとする人々も現れます。その典型的な人物が、ヘロデ大王で、ガリラヤやフィリポ・カイザリア地方の支配を任されるようになっ

ていました。そうです、メシアのイエスさまがお生まれになったと聞き、2歳以下のこどもすべての虐殺を命じた、あの王です。さらには「徴税人」と呼ばれる、皇帝の税を人々から取り立て、そのピン撥ねで、生計をたてようとする人々も登場します。いくらでも取り立てられるだけ取り立ててしまい、それから定められた一定の皇帝税を支払う、という仕組みです。この制度により皇帝税の徴税率は一段と高まったようです。いわば、皇帝権力を笠に着てユダヤの民から資産を収奪して、のしあがった成り金階層です。そうした背景から「ザアカイ」と呼ばれる「徴税人」が登場します。

「ザアカイ」は、人々から見れば卑怯でいやらしい、当然、本心からの友人もなく、軽蔑され、貶められていました。しかし他方で、権力を笠に着ていよいよ民から収奪を繰り返し成り金層に成り上がっていました。人間社会には、いろいろなタイプの人物が現れ、登場します。政治、経営、医療、法曹、教育など、さまざまな職業選択が迫られます。どうしようもない社会制約の中で皆、生き方、生存の道を探り求め、さまざまな思いのもとで挫折と成功、敗北と勝利など紆余曲折を経て、人生を歩みます。ザアカイも、どうしようもない人生選択があったはずです。必死に生き残ろうと足掻きに足掻いた結果の成功？人生選択だったのでしょう。
そこに、イエスさまが登場します。噂で名高いイエスさまがエリコの町においでになりました。ザアカイは街道の表側に出られず、背後のいちぢく桑の木に登り、こっそりと枝に隠れるように、イエスさまを一目見たいと、おいでを待ち構えていました。ところが、そこへ突然、イエスさまの方から「ザアカイ、急いで降りて来なさい。今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい」。イエスさまは、大きな声でザアカイを呼び、手招きします。ザイカイを軽蔑し厭しむのでなく、心からザアカイの複雑な思いを、深く傷つき痛んだ心を優しく包み込み、懐深く受け入れておられました。過酷な社会的制約の中で必死に生存しようとする思いから、人々の人生がどうにでも変容し、翻弄される悲しみを、イエスさまは深く慈しみ見つめておられました。聖書の主人公は例外なく罪人と呼ばれる人々で、病気や目・耳・身体が不自由なために社会から排除され捨てられた人々です。こうした方々を深く愛し憐れむイエスさまが福音書に数多く描かれます。人其々の深い痛みと悲しみがあります。イエスさまは人が生きるうえで罪を背負うことを知っていたのです。親になれば、親としての責任を背負い、結果はさまざまです。教師になれば、感謝され尊敬されるばかりでなく、罪と責任が厳しく問われます。善かれと善意を尽くしても、他者からすれば、深い傷を負うこともあります。各人各様の罪と責任、傷や痛みをイエスさまは常に深く憐れみ、見つめておられました。ついにイエスさまはザアカイと共に一宿一飯を分かち合います。罪人と共に暮らし罪人と共に歩む、イエスさまのお姿がよく分かります。最後はザアカイのために十字架に死んで罪を償い、ザアカイのために復活して新しい命に甦らせるのです。誰がいったい自分の人生のために十字架にかかり、復活してくれるのでしょうか。

のぞみ幼稚園の園児の皆さんも、今過酷な社会制約の中で、懸命に健やかに逞しく成長しています。新学期を迎えその成長はまぶしい程です。しかし成長は一方で選択でもあります。其々の家庭で慎重に考え準備し選び取った選択結果でもありま

す。選択は得ることでもあり、失い奪い合うことでもあります。社会で懸命に生き成長するうえで、こどもたちはさまざまな思いを、時には深く傷つけ傷つくこともあるでしょう。しかし、イエスさまは、成長過程で生まれる葛藤、痛み、悲しみを深く憐れみ慈しみ、見つめます。その成長と共に、痛み悲しみと共に歩んでくださいます。葛藤や苦悩、痛みや悲しみの中にあるこどもたちひとりひとりの人格と魂を、イエスさまは優しく包み込み、ひとりひとりを根源から認め、過ちを赦し、魂の底から励ましてくださいます。イエスさまは命を尽くして贖罪し、命を尽くして新しい命をお与えくださいます。ザアカイのように嫌われ者といじめられようが、イエスさまは根源からザアカイを愛し、ザアカイの人格に寄り添い続けました。そのイエスのみことばにより、また愛と慈しみのみ心によって、ザアカイは見事に、自己の人間性を回復してゆきました。